

CONTENTS

1. TOPICS

女性研究者・技術者の会「第2回ランチミーティング」を開催

2. REPORTS 2～4月の活動報告

3. INTERVIEW 内匠逸理事/副センター長 増田理子教授

4. 本学における研究者支援施策

英語論文校正費補助/英語論文・プレゼンテーションセミナー

5. WLB相談室

6. 彩綾～SAYA～だより

TOPICS

女性研究者・技術者の会「第2回ランチミーティング」を開催

3月11日、i-café（11号館2階）にて、2回目のランチミーティングを開催し、9名の女性研究者・技術者が参加しました。今回は、「多様な性（LGBT）と大学教育～多様性頭揚の陰で～」と題して、名古屋短期大学現代教養学科の綾部六郎先生に30分程度講義をしていただきました。こういった内容のお話を聞く機会は、本学でほとんどないため、ランチミーティングに参加された先生方は、これまでの学生対応などの経験を踏まえ、活発に意見交換をされていました。

近年は、学生自身も自身の性自認、性指向をカミングアウトする人が多く、またH28年度からは障がい者差別解消法施行などの動きもあります。綾部先生は、大学教育においても、性的マイノリティに対する配慮を求める動きがあると述べられました。参加された先生方からは、有意義な時間であったという感想が多く聞かれました。



REPORTS

2～4月の活動報告

02 February

1月27日～2月15日
男女共同参画に関するアンケート実施

本学における労働環境の整備と意識改革を推進し、ワークライフバランスを実現するため、教職員、研究者、大学院生を対象にアンケート調査を実施しました。

結果は今年度中にホームページ等にて公開予定です。

03 March

24日
平成27年度第5回FD研究会を開催

本学工学教育総合センターと創造教育開発オフィス、e-Education推進部会が主催し、本センターが共催した平成27年度第5回FD研究会「工業大学における教養教育を考える中国北京化工大学の事例紹介」を開催しました。

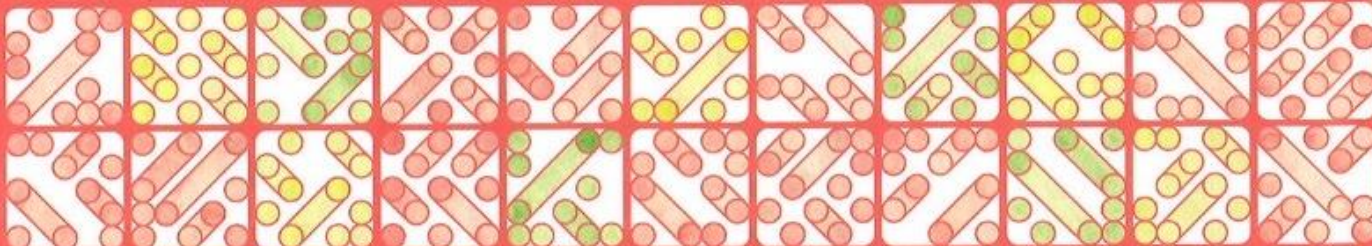


04 April

21日
トヨタ女性技術者育成基金
個人相談会を開催

28年度新入学生（第一部）を対象とした個人相談会を開催しました。新入生約60名が参加し、基金担当者や27年度受給者から、基金の概要や、メリット、選考の流れなどに関する説明がされました。

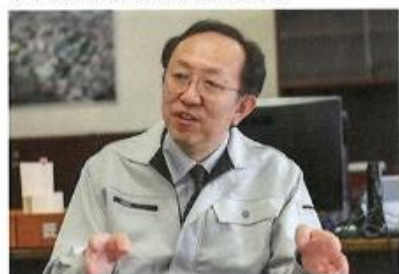




INTERVIEW 内匠 逸 理事

名工大の男女共同参画に対するお考えをお聞かせください。

私が所属している情報工学教育類の女性比率はまだまだ少ないのですが、男性だからとか女性だから、というような意識はありません。一般的に女性研究者が少ないのは、「男性が働き、女性が家庭を守る」といった歴史的な社会通念が根深いためでしょう。しかし、今となっては合理的な考えではありません。男性と女性がともに力を合わせてモノを作り、人を育て、制度を整えることでしか、平和で幸福な世界は実現しません。



名工大の女性研究者支援に対する取組についてはどのようにお考えでしょうか。

女性研究者を増やさなければ女性ならではの強みも形になりませんし、認知される歩みも遅くなります。挑戦を継続で

きるような支援制度は大歓迎です。一方で女性には出産や子育てで働けない時期もあると思います。母親は子供にとって大きな存在ですし、家庭の安定は子供にとって大切です。仕事の密度を高め、残業をむやみにしない体制を作る、これは女性のみならず男性にも求められることだと思います。

ご自身のワークライフバランスはいかがですか。

ボチボチですね。妻からは仕事ばかりだと言われてきましたが(笑)。でも最近、私より妻や子供の方がずっと忙しくしています。人生のフェーズに応じて、家族が互いに助け合えば、精神的には満足です。

忙しくて時間がないという人もいますが、時間やマンパワーなどの資源は有限なので、手元の資源でどこまでできるか、という発想が必要ではないでしょうか。もちろん不測の事態は起こりえますが、誰かやれる人がやってくれる、という楽観性も大切だと思います。先日トラブルが発生した際も、休日返上で自主的に作業してくれる人がいました。そうやって助けてくれる人に感謝する一方で、やりたくとも様々な理由でできない人もいます。そういう人がプレッシャーを感じないように配慮

することも同じくらい大切だと思います。

最後に名工大生に対して一言メッセージをお願いします。

目標は高く。愛知に留まらず世界を視野に入れた目標を持ってほしいと思います。そして決まった進路を走るのではなく、自分で自分の道を探してほしい。先の安定なんてわかりません。いかにして自分を鍛えるかを考え、自分を高める努力をすることが大切ではないでしょうか。

インタビューを終えて

私がインタビューさせていただいた育児期女性の多くが、育児期に直面した困難として「とにかく時間が足りない」ことを挙げており、それを乗り越えるためには、「現状を受け入れること」「今はしかたがないと割り切ること」が必要だと述べていました。内匠先生がおっしゃる通り、時間や人手といった資源が足りないことを嘆くのではなく、「手元の資源でどこまでできるかという発想」が大切なのだと改めて実感しました。そしてこれは育児期女性に限らず、すべての人に必要な発想だと思います。(菊池)

本学における研究者支援施策

英語論文校正支援

英語論文校正支援は、出産、育児、介護等のために十分な時間が確保できない教員等が英語論文の校正を委託する際にかかる経費を支援することにより、教員等の生活と研究業務の両立が図れる一助とすることを目的としています。

1件につき上限を3万円とし、1名につき年間3件までとします。ただし、予算等の条件により、支援内容が制限される場合がありますので、利用希望の際には当センターへお問合わせください。

【利用実績】

平成26年度 計3名、計6件
平成27年度 計7名、計11件

この制度を利用可能なのは教員等のうち生活と研究業務の両立が困難であり、以下のいずれかの要件を満たす方です。

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要支援者または要介護者がいる者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

INTERVIEW

副センター長 増田 理子 教授

4月から副センター長に就任されました。今後の男女共同参画に対する思いや期待などをお聞かせください。

副センター長になったから、というわけではありませんが、今後はダイバーシティマネジメント、女性に限らず、外国人、宗教、性的マイノリティ（少数派）への支援も必要ではないかと思っています。価値観の多様性を受け入れることで、マジョリティ（多数派）の人たちもより働きやすくなると思うからです。

ダイバーシティ実現のためには何が必要だとお考えでしょうか。

女性だから、外国人だからといって周りの人がリミットを決めてしまうこと、具体的には割り振る仕事を減らすこと、いつまでにどのような能力を習得する、というキャリアパスを提示しないことは、その後の成長のチャンスを奪うことにつながると思います。子育て中であっても仕事を精いっぱい頑張りたい人もいますし、日本語が不自由であっても業務を行うことで日本語がうまくなることもあると思うからです。もちろん何らかの事情で今は仕事をセーブしたいと思う人もいます。だから周りの人

は仕事量を自分の価値観で決めてしまうのではなく、状況に応じて選択できるようにしてあげる必要があると思います。



増田先生自身もお子さんがいますが、仕事と子育ての両立はいかがでしたか。

私、そんなに両立に苦労していないんですよ（笑）。仕事は好きな研究やお金もらえるんだから苦労ではないし、子供は面白い。子供をコントロールしようと思うから、疲れると思うんです。子供と自分は違う個体なので、思い通りにならないのは当然。あと大変な時期はいつまでも続くわけじゃないし、夜泣きが大変でも「おお、脳の記憶時間が長くなっているのか！」と観察して楽しめばいい。子育ても仕事も大変だと思うから大変になるのではないのでしょうか。世の中には無駄なことなんて何も無いと思います。

大変なことでも自分の成長につながる可能性があるのだから、要求されたことはまずやってみる、自分のできることをやる、というのが大切だと思います。

最後に名工大の学生に一言お願いします。

大学では男女は平等だけど、社会は必ずしも平等ではありません。まずは大学と社会は異なるということを認識すること、そして社会に出て働くためには自分で限界を決めない事が大事だと思います。

インタビューを終えて

子育ては無理をして頑張るものではなく、子供の存在や子供との生活スタイルを受け入れることなのだ気付かれます。今おかれている状況を理解し、しなやかに受け入れる。そんなふうには増田先生は育児期を乗り越えてこられたのだと思いました。子育て・介護をしながら働くこと、外国で働くこと、周囲とは異なる宗教を信じること…自分がマイノリティになった時に初めて不平等さに気付くことがあります。その状況下で働き続けるためには何が必要なのかを、今一度自分にも問いかけたいと思いました。（菊池）

英語論文・プレゼンテーションセミナー

英語論文・プレゼンテーションセミナーでは、外部講師を招き、講義を行っています。女性研究者だけでなく、学生や若手男性研究者の皆様も参加いただけます。

【今年度の開催】

7月・10月・2月に開催を予定しています。日時が確定次第掲示板にてご案内致します。

【過去の開催】

英語論文・プレゼンテーションセミナー

日時：2015年3月27日（金）10:30～15:00
 講師：野口ジュディー・津多江氏（武庫川女子大学薬学部教授）
 内容：午前 ジャナル、ESP、コーパスと英語論文の書き方
 午後 英語プレゼンテーションのPPTとポスターの注意点、練習方法
 参加：26名（教職員13名、学生13名）

科学英語論文の書き方セミナー

日時：2015年8月3日（月）10:30～14:30
 講師：小野義正氏（理化学研究所 客員主管研究員）
 内容：セミナー1 英語の発想法と論文執筆の鉄則
 セミナー2 英語論文の作文技術と文法事項
 参加：58名（教職員16名、学生42名）

科学英語論文のプレゼンテーションセミナー

日時：2015年12月25日（金）10:30～16:10
 講師：小野義正氏（理化学研究所 客員主管研究員）
 内容：英語口頭発表の基礎と準備
 英語口頭発表の実践ポイント1
 英語口頭発表の実践ポイント2
 参加：44名（教職員14名、学生30名）



2000年以降共働き世帯が、男性の被雇用者と無業の妻からなる世帯の数を上回る状況が続いている一方で、男性が家事育児に費やす時間は増えていません。育児支援制度を利用するメリットとそれを阻むものは何なのでしょう。

前回に続き、今回も本学の男性職員で、育児支援制度を活用した経験を持つ学務課山口さんにお話を伺いました。



山口裕史さん
(学務課 大学院係長)
2015年8月に妻が第二子を出産。10月末より2ヶ月間育児部分休業を取得し、2016年1月より通常勤務。

育児部分休業を取得した理由を教えてください。

1人目の時にはなかった育児の大変さが2人目にはあると思い、2か月間、1時間の部分休業を取得しました。1時間早く帰ることで、子どもの風呂入れ、寝かしつけなどを担当することができました。子どもの成長していく様子を近くで見られるのは大きな喜びです。

男性が部分休業を取ることに伴う周囲の反応はいかがでしたか。

男性だからといって制度が使いにくいということはあまり感じませんでした。

特にここ数年、育児休業に関して雰囲気随分変わってきたと思います。それは男女共同参画推進センターができたことなど名工大の姿勢、上司の考え方、部分休業を取っていてもきちんと仕事をしていけばよいという部署の雰囲気などによるものだと思います。

部分休業を取ることに伴う業務への影響はありますか。

部分休業は基本的に残業ができない制度なので、勤務時間としては実質一日3時間くらいに短縮になっていました。係長という職責上、係員に対する責任もありますし、決して暇な部署ではないので、短い時間で業務をこなすためには、優先順位づけやスケジューリング、また周りの人に理解してもらうことが大切だと思っています。スケジューリングについては、前もって上司や同僚に部分休業を取る可能性は伝えていましたし、担当業務における繁忙期はわかっていた

ため、前倒して処理することで乗り越えることができました。また、自分一人では処理しきれない業務を周りの人に助けてもらいながらこなしてきました。助けてもらうためには、どの人に何の仕事を依頼するかという差配を考える必要もあります。大変ではありますが、時間的制約のもとで働くことで、常に効率性を考えて行動していましたし、ただただできないので労働密度が高まったように思います。

今後部分休業等の取得を検討している人たちにアドバイスをお願いします。

名工大は育児をしながら働く上でも、とても恵まれた環境だと思います。育児制度も充実していますし、制度を利用するにあたって職場の理解も得やすいからです。それぞれが状況に応じた制度を選択し、ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方をすることが増えたらいいと思います。

子育てパパの本音をまとめた『男たちのワーク・ライフ・バランス』(ヒューマンルネサンス研究所編著)によると、共働き男性たちが家事や育児にかかわるようになったからといって、彼らはキャリアアップをあきらめたわけでも、スローに生きていと願っているわけでもありません。子育て真っ最中の男性たちの多くは、実は「もっともっと仕事したい」と思っています。それでも妻の大変な様子を見て「妻が壊れる！こりゃ大変だ」「妻の負担は結局自分に降りかかる」と思ったことが積極的にかかわるようになったきっかけだといいます。しかし家事や育児にかかわることは、妻の負担を減らし、子供の成長を実感できる一方で、なかなか立場を理解してもらえないつらさ、キャリアが中断される恐怖、仕事と家事や育児の両方を背負う疲労感など、様々な思いを抱えていることも事実です。山口さんの語りにもあったように、周りの人から理解を得られるよう努力することに加え、周囲の人の理解はとても重要だと思います。



WLB 相談員
菊池美由紀

発行 名古屋工業大学男女共同参画推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 TEL | 052-735-5121

URL | <http://www.nitech.ac.jp/gender/> E-MAIL | danjokyodo@adm.nitech.ac.jp

彩綾～SAYA～だより

4月14日 新入生歓迎会を開催しました！



では、希望に満ち溢れた新入生と出会って、自分の入学式

昨年引き続き、今年も新入生歓迎会を開催しました！

入学式やお昼休みに配ったチラシや、校内の掲示を見て足を運んでくれた新入生が今年も多くいました。特に入学式でのチラシ配り

を思い出し、時の流れの速さにとても驚きました。

そんなことはさておき、今年の新歓は人間知恵の輪、謎解き、ビンゴゲームなどお話しだけでなく誰でも楽しめるようなゲームを準備しました。嬉しい景品付きです。お互い初めましての新入生は、自己紹介などの後、緊張も少しあり会話が途切れてしまったりすることもあったので、去年の新歓の反省も含めて、すぐに打ち解け合えるような楽しいことをしたいという話し合いからこのようなゲームを企画しました。企画した私たちも新入生と一緒に楽しむことができました。その後、早速 SAYA の会議に新入生と3年生が来てくれました。今年も新歓をやって良かったと思っています。
(環境材料工学科2年村田亜美)